

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌

花



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

— R I K K A —

2014.SUMMER [No.9]

 新潟大学

授業紹介-教育の現場-

学生の課外活動&サークル紹介

Enjoy! 学生ライフ

シリーズ・対談

注目される研究報告

Campus Information

特集

個性あふれる
キャンパスライフ
~新大の魅力発見!~



特集

個性あふれるキャンパスライフ ～新大の魅力発見!～

新潟大学では、9学部7研究科に約13,000人が学んでいます。個性のある大規模総合大学として、社会と未来に貢献するとともに、地域に生きる大学として、教育と研究の重要な拠点となっています。

そんな新潟大学の学生は、それぞれの興味も生活スタイルもさまざま。
新大生の多様なキャンパスライフを紹介します!



CONTENTS

03 特集

個性あふれる キャンパスライフ ～新大の魅力発見!～

08 授業紹介 - 教育の現場 -

09 Enjoy! 学生ライフ

10 シリーズ・対談

11 注目される研究報告

12 Campus Information

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

六花

題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。
現在は、岐阜女子大学 教授

NEWS! 公式Facebookページを開設しました。

 新潟大学 Facebook

本学ホームページからアクセスしてください。多くの皆さまの「いいね!」をよろしくお願いします。

ホームページで発信するニュースのほか、四季折々のキャンパス内の風景など新潟大学をもっと身近に感じていただけるコンテンツを発信していきます。

Cover Photo

第一学生食堂前広場で新潟大学生協学生委員会に所属する4人を撮影。オープンキャンパスでは、キャンパスツアーなどで来場者の皆さんをサポートします。顔を見かけたらぜひ声をかけてください!



自宅外生と自宅生 キャンパスライフの過ごし方



自宅外生 の場合

白井鈴花さん
人文学部3年

大学周辺は一人暮らしの 学生にとって恵まれた環境！

私は福島県出身。人文学系の学問に興味があり、入学後の選択コースも多彩な新潟大学を志望しました。現在はメディア表現を専攻し、携帯ツールや地域メディアについて学んでいます。

一人暮らしを始めて3年目に入りました。毎日の食事の用意など、実家で暮らしていた頃は家族に任せていた家事をひとりですること、高校生当時に比べて随分と**自立した生活が送れるようになった**と思います。**新潟大学周辺は一人暮らしの学生にとって恵まれた環境**。近隣に学生が暮らすアパートが多く、私もキャンパスまで徒歩10分の距離に部屋を借りています。毎日の食材や日用品が揃うスーパーも近く、友人と食事に行くご飯屋さんも豊富。学業と生活の距離が近いのが魅力です。



自宅生 の場合

豊島悠太郎さん
人文学部3年

家事にかかる時間が少ないので 安心して学習に専念できます

僕は新潟市内の実家から自転車と電車を使い、約1時間ほどかけて通学しています。一人暮らしとは違い、**毎日の食事を作ったり家事にかかる時間が少ないので、安心して学習に専念することができます**。現在はゼミで民俗学を専攻していますが、その他に公務員講座も履修しています。毎日家に帰ると家族がいて、賑やかに団らんの時間を過ごすことで、僕自身支えられている部分は大きいと思います。

しかし、いくら家族とは言え頼り切りではいけません。学内外の交際費はアルバイトで稼ぎますし、外食をしたり帰宅が遅くなる日には予め連絡しておきます。自宅通いで家族と近い距離で生活するわけですが、**自立した個人としてルールを守ること大切だ**と思います。

学生4人のキャンパスライフを比較 新大生の毎日はこんなに充実!!

理系学生と文系学生 キャンパスライフの過ごし方



理系学生 の場合

白井健太さん
工学部3年

計算式で語るだけではなく 自分の言葉を使った対話力が重要

僕が在籍する機械システム工学科は、工学の基礎となり、実際の開発の現場でも汎用性の高い4大力学をすべて学べる環境。将来はエンジニアを目指しているので、しっかりと身に付けたいと考えています。

学業はもちろん大切ですが、能動的に学ぶことができる時間が与えられているのが大学生。カナダ留学時に授業で、まったく自分の意見を発言できなかった経験から、コミュニケーション力の重要性に気付きました。人の目を見て、しっかりと自分の意見を伝えること。当たり前のことですが、その大切さを身を持って学べたと思います。理系と言えども、**計算式だけで語るのではなく、きちんと自分の言葉で説明できる力が必要**。文系の要素も兼ね備えた、熱意と行動力のある人間を目指します。



文系学生 の場合

秋山海人さん
経済学部2年

物事を多角的に捉えられる 視野の広い人物を目指します

新潟大学は他学部の講義を履修できる制度が充実しています。これは総合大学ならではのメリットだと思いますし、専門分野だけに捉われず、広い視野を持って学習できる環境が整っています。僕自身、学部の経済数学を体系的に学ぶ一方で、教職課程や地理、物理の講義も履修しています。高校生とは違って、分からない事は自分で学ぶ必要があるのが大学。中央図書館には専門書や文献が充実しているので、頻繁に利用しています。

将来は教員や研究職など、自分の得た知識を伝えていくことを仕事にしたいと考えています。現在、世界で起っている**様々な事象を理解し、その背景にあるものを掴みとる力こそ文系の武器**。物事を多角的に見ることができる人物を目指し、知識を豊かにしていこうと思います。

学生と保護者に聞いた「新潟大学を選んだ理由」と「成長の実感」 自立し成長する学生と保護者のサポート

数ある進路の中から新潟大学を選んだ理由はどんなところにあり、その結果、彼らはどのように成長したのでしょうか？



内藤成久さん
教育学部2年

学部の専門だけではなく 幅広い学びができる新潟大学

●内藤さんが進路に新潟大学を選んだ理由を教えてください。
「出身地の山梨県は、海がなく雪の降らない場所。大学生活は人生に一度きりの貴重な4年間なので、生まれ育った土地とは環境の違う所にある大学に通いたかったんです。また、新潟大学は、学部の専門だけではなく幅広い学びができる総合大学というの大きな理由です。僕は教育学部の学習社会ネットワーク課程で学んでいますが、ここでは、教育制度に加え、社会学や法律、政治、国際問題についても学べます。教育は生きる上でとても重要ですし、さらに現代は社会的な経験や知識、国際感覚についても求められる時代。その三つを兼ね備えた学びができる新潟大学を志望しました」。

●学生生活の「学び」の面は、どんな所を意識していますか？
「まず大学は高校に比べて自由

—保護者の声—



内藤利枝さん

大学進学を目指し高校時代は毎日毎日コツコツコツと勉強していたようです。土日や祝日も塾や自宅勉強していて、少しは友達と遊びに行ったり、ご飯を食べに行ったりして息抜きも必要かなと思ったりしました。家で学校の話や友達の話はあまりなかったので、大学に行って友達ができず困ってしまうのではと少々心配していました。

実家にいた頃は、食べ終わった食器を台所に運ぶくらいしかやっていませんでしたので、一人暮らしになって料理・洗濯ができるのか不安でした。様子を聞くと、きちんと自炊し、部屋もキレイにしているとのことでしたが、先月初めてアパートに行き、本当に部屋が整理整頓していたので、とても驚きました。金銭的にもいろいろ考えてやっているようで、毎日手作り弁当を持っていくのには、本当にびっくり！彼の努力を感じました。

息子の成長を目の当たりにし、嬉しい思い以上に親離れが加速していく寂しさもあります。高校、大学時代の友達は一生の友達になります。毎日勉強に励み、友達と楽しく過ごして元気でいてくれることが一番の親孝行だと思います。今以上にこれからどのように成長した姿を見せてくれるのか楽しみにしています。

です。講義を選択できるというのは入学当初は新鮮だったし、新潟大学は教養の講義が多く選択の幅も広い。その一方で、自由には責任が伴うことも考えさせられました。講義に出るのも出ないのも自由だからこそ、成績や結果についても責任はすべて自分

にある。自分は将来どんな人間になりたいのかというビジョンをしっかりと持って講義を選び、学んでいます」。

●内藤さんは「ダブルホーム制」(※下記参照の活動にも参加しています)。
「学外の方と接することで、コミュニケーション力やソーシャルスキルが身についたと思います。学生が地域のために何ができるのかを考えたり、世代や住環境の異なる人たちと接することは面白いし、学ぶことが多い。様々な土地に足を運ぶことによって、将来は過疎地域のためになるような活動や仕事をしたいという目標ができました」。



た。新潟大学周辺は、学生向けの物件がキャンパスにほど近い距離に集まっています。ひとり暮らしの学生にとって恵まれた環境だと思っています。まわりには飲食店も多いですが、僕はできるだけ外食をせずに、食事は自分で作るようにしています」。

●学生生活を通して、どんな点が成長したと感じますか？
「友人を作るために自分から意識して積極的に周囲に話しかけた結果、コミュニケーション力が上がったと思います。ひとり暮らしのおかげで料理や洗濯もできるようになって自活力がつきましたね。親も驚いていますよ」。

新潟大学 独自の 取り組み

「ダブルホーム制」による、 地域の教育力をいかした学生支援



山形県小国町で活動するJホーム



新潟県加茂市で活動するKホーム

「ダブルホーム制」は、地域の教育力をいかして社会で生きていくための基礎的な力を養成するプログラム。第一のホームである学部・学科は、学生の専門的な学びの場。第二のホームは文系・理系・医歯系の区分を越えた学生たちが集まり、地域活動を通して発見、つながり、成長を感じることができる学びの場となります。平成26年度は16のホームに分かれ、新潟県と山形県の活動に取り組んでいます。学生たちは、地域活動を通し多様な価値観の人たちと交流することで視野を広め、ともに協力する力や課題を解決する力を育てています。

新潟大学の キャリア・就職サポート

主体的で充実した学生生活は、卒業後の進路決定に大きく影響します。新潟大学は、豊かな教養と専門知識、たくましい人間力を兼ね備えた人材の輩出に務めます。

広く社会に貢献できる人材育成を目指す キャリアセンターの取り組み

キャリアセンターは、全ての学部・学年が利用可能。学生一人一人に合ったきめ細かいキャリア形成支援を行っている。各種進路に関するガイダンスのほか進路相談、模擬面接、インターシップ等の進路支援イベントを実施。さらにキャリア意識形成科目の授業を通じ、広く社会に貢献できる人材の育成を目指す。



教育・学生支援機構
キャリアセンター
西條秀俊 准教授

「本学は全国の国立大学の中でいち早く、平成17年にキャリアセンターを設立しました。学部と密接に連携しながら、就職活動だけではなく、広く学生のキャリア支援を行っています」と西條准教授。常勤スタッフの中で7名のキャリア・コンサルタント等の資格者が在籍し、進学・就職に関する情報提供はもちろん、「自律と創生」ということだ。「新大生の印象については、堅実な人柄や潜在能力が高い」といった声が企業からしばしば聞かれます。その反面、「もっとアピールする力が必要」と言われることもある。私は必ずしも新大生が積極性に欠けるとは思いませんが、外に対して自己を表現する力を養う場面を多く提供する必要があります。専門分野の知識を学ぶだけではなく、「コミュニケーション能力などの汎用的能力を高めることも重要。そのような人材を企業や社会は求めていますし、それは就職活動の現場でも大きな武器になるはず」。

そのため企業と連携しインターシップ等を通して主体的な人材を育てることを目的にした「産学協働教育」にも注力。さらに「キャリアセンター学生プロジェクト」では学生が中心となり、社会人と交流ができる場を創出。いずれも就職活動だけが目的ではなく、低学年次から学生が意欲的にキャリア意識を高められる環境を作り出すための取り組みである。

就職活動を無事に終え、内定をもらった学生にインタビュー

新大生の就活奮闘記

就職活動では、学部の講義で身につけた専門的な知識や技術はもちろん、学業以外の場面でも自らの成長を実感することが大きな力になるようです。見事に内定を手に入れ、来春より社会人として活躍する二人の4年生に話を聞きました。

理系学生の場合

Job hunting

内定GETの秘訣

学生時代を通じて
自分がどれだけ成長
できたかを実感すること

志望企業を絞る

部活動で身に付いた
行動力と礼儀

ゼミで身に付けた社会性と 剣道で培った人間力

高校生時代にIPS細胞発見のニュースに触れ、将来はさらに遺伝子に関する正しい理解が必要とされる時代になると考えた小林さん。新潟大学に進学し、理学部の分子遺伝学研究室で植物について研究する。

「専門知識はもちろんですが、ゼミで得た何よりも大きなものは、社会性の大切さです。ゼミは意見を交換する場ですが、考えがまとまらないうちに発言しては時間にもロスが大きい。前もってしっかりと準備し、考えをまとめてから話し合いに参加することの重要性に気付きました」。

部活動は小学生の頃から続けた剣道部に所属。今春行われた北信越大会で見事二連覇を達成し

た。また、長期休暇にはカナダに留学。現地の剣道部の学生と積極的に交流し、国際社会でのコミュニケーション力も養った。

文字通り文武両道の学生生活を送り、就職活動へエントリーシートの作成に当たっては、学内のキャリアセンターを利用した。

「キャリアコンサルタントのみなさんには大変お世話になりました。基礎的な知識やデータの分析はもちろん、メンタル部分まで丁寧にサポートしてもらいました。就職活動を終えて、改めて体育会系的な人格の大切さを認識しました。真面目で素直、行動力と一生懸命さ。目上の方への礼儀を大切にすること。すべて続けてきた剣道が教えてくれたことです」。

小林幸暉さん

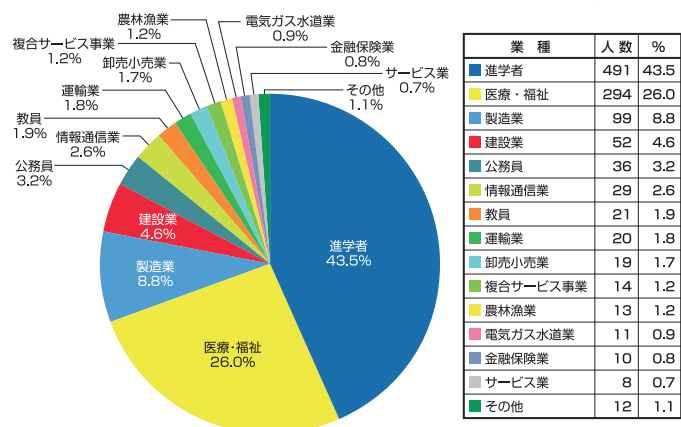
理学部4年



新潟大学の就職データ

●平成25年度本学卒業生の進路・就職状況

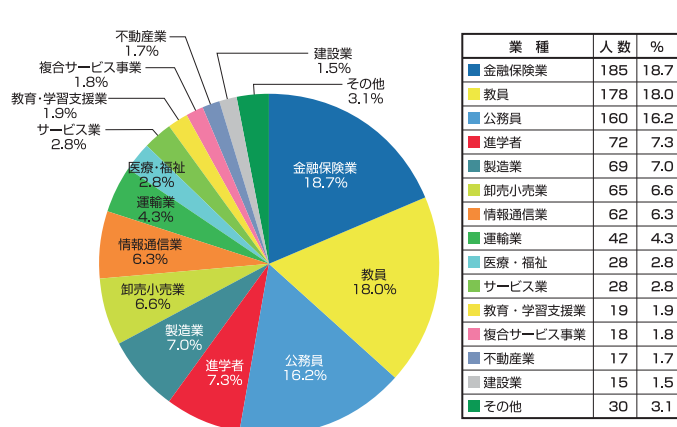
理系(理学部、医学部、歯学部、工学部、農学部) 合計1,129名



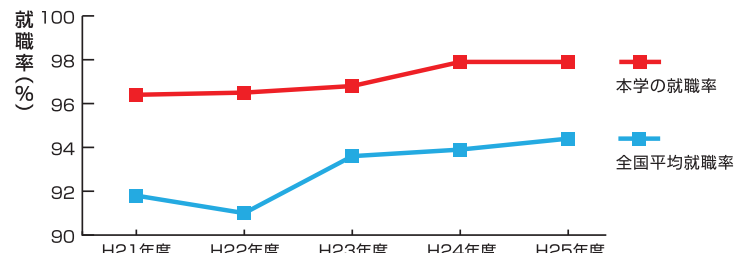
●過去5年間の卒業生 進路・就職データ

区分	卒業生	就職希望者	就職決定者	就職率	進学者
H25年度	2,307	1,587	1,554	97.9%	563
H24年度	2,350	1,573	1,540	97.9%	604
H23年度	2,332	1,483	1,436	96.8%	628
H22年度	2,370	1,500	1,447	96.5%	676
H21年度	2,377	1,521	1,467	96.4%	669

文系(人文学部、教育学部、法学部、経済学部) 合計988名



●本学と全国平均の就職率の比較



Job hunting

文系学生の場合

自分が得た経験や知識を 分かりやすく説明する力が必要

格差社会についてゼミで学ぶ小比田さん。

「日本社会で起っている事実と、その背景には何があるのかを批判的に見る視点が身につきました。人とは違った視点を持つことが就職活動でも武器になったと思います」。

現在、住宅メーカに内定している小比田さんは、「自分の強みを、いかに分かりやすくアピールできるかが勝負」と就職活動を振り返る。そのため、ゼミや部活の友人と自己分析を繰り返したという。

「その結果、競技ダンス部で過ごした4年間で私の財産だと分かった。自分らしさと素直さを忘れず、チームとしてのまとまりが大切だということをリーダーとして伝える力がついた。また、辛

い時こそ楽しむ気持ちを忘れないということ。お互いを理解し、目指しているものが明確になった時、演技は段違いにいい方向に向かっている。そのパワーを社会でもいかしたいと思いました」。

その他、面接対策は大学のキャリアセンターを積極的に利用。キャリアスタッフと練習を何度も重ねた。

「いくら万全な用意ができたからといって、自分が思い描いた結果だけが残るわけではありません。自分が得た経験や知識はどのようなもので、それをどう生かしていきたいのかを分かりやすく説明できる力が必要だと思っています」。

内定GETの秘訣

ゼミで身に付けた
批判的な視点

友人たちと何度も
繰り返した自己分析

競技ダンス部で培った
精神力と団結力

小比田 柚子さん

経済学部4年



学生にとっては、部活に代表される課外活動も大切な青春の1ページですよ! このコーナーでは、そんな部活動を中心とした新大生の活躍をお届けします!!

CIRCLE PICK UP! 運動系

自転車旅を通してチーム力を養う サイクリング部



知らない土地の風を感じながら楽しく走ります

↑部内は男女仲良く、ほのぼのとした雰囲気。有志を募り、大会に出場するチームもあります

今しかできない旅は感動がいっぱい

「普段の活動は週に1回、合宿に向けての話し合いなどを行っています。合宿をメインに活動する人や毎日走って大会を目指す人もいて、各自のペースで活動に励んでいますね。多くの部員が楽しみにしている合宿は春と夏に行きます。県外へ行くことも多く、旅先の魅力を全身で感じられるのが醍醐味です。また2週間の合宿中は部のメンバーと常に一緒なので、集団行動力やチームのために動こうという自発性が身につきました」



部長 齋藤慎平さん(農学部3年)

CIRCLE PICK UP! 文化系

長い歴史と伝統を今に受け継ぐ 茶道部[石州流]



茶道のおもしろさは、奥の深さ。常に新しい発見があります

↑今年6月8日、新潟大学の開学を祝うお茶会でのワンシーン。こういった「お茶会」への参加が活動の中心である

お茶席を、なごやかで楽しんでもらえる場に

「新大には茶道部が4つあるんですが、旭町の旧制医科大学時代から続く石州流は、今年が67年目と一番歴史のある部。90歳近いOBの方から年賀状の返信をいただいたりしますし、この長い歴史は素晴らしいものですよ。現在、部員は22名。私たちの部は、お茶をたてる人がお客様と話して場を盛り上げます。気持ちに味にこもっているのが、10月の市民茶会、11月に古町で行う学生茶会など、ぜひいらっしゃってください」



部長 斎藤朋美さん(農学部3年)

CAMPUS TOPICS!

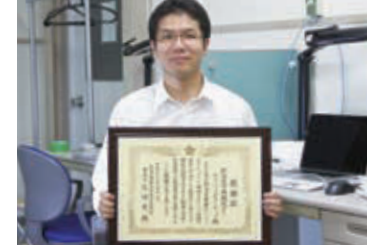
「輝け未来!! 新潟大学入学応援奨学金受給者と学長との懇談会」を開催しました

平成26年6月24日(火)に総合教育研究棟において、『輝け未来!!奨学生と学長との懇談会』を開催しました。懇談会には、第4期生23名と第1期生の先輩奨学生1名、学長・理事等が参加しました。第4期生からは「これから多くの挑戦をしたい。留学などで日本を飛び出し、しっかりと現実を見たい」、「学生寮での生活では不安もあったが、すぐに周囲と打ち解かれ、楽しく生活ができています」などの発表がありました。先輩奨学生からは「初心を忘れず、いろいろなことにチャレンジしてください」とあたたかいエールが送られました。



法学部の学生が新潟県警サイバーボランティアに委嘱されました

平成26年6月13日(金)に駅南キャンパス「ときめいと」において、新潟県警サイバーボランティアの委嘱式が行われ、本学法学部の学生7名を含む県内の大学生26名が委嘱されました。サイバーボランティアとは、インターネット等のサイバー空間における健全化と規範意識の向上を図り、安心して利用できるサイバー空間の確保を目指し活動を行うものです。また、本学法学部の情報法ゼミナールでは、サイバー犯罪に対する一般ユーザー向けの啓発動画を作成しており、その活動が新潟県警の広報活動に貢献したとして高く評価され、同式典の中で感謝状が授与されました。



意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介 — 教育の現場 —

第9回 経済学部

藤堂史明 准教授

Profile
専門は経済政策。環境経済学の理論と持続可能なエネルギー・交通分野の政策を研究。



入門ミクロ経済学

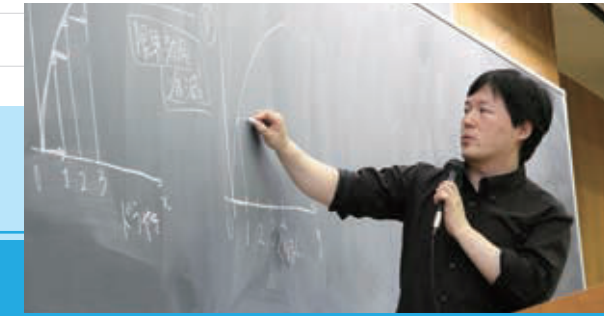
個人や企業の経済活動に着目。商品やサービスを望ましく経済活動に配分する仕組みを学ぶ

『入門ミクロ経済学』は、様々な経済学の基礎となる分野で、個人や企業という経済活動のミクロな単位に着目。学生たちは、その行動原理について学び、競争的な市場が価格メカニズムを通じて商品やサービスを望ましく経済活動に配分する仕組みを学習する。

「市場が理想状態から外れて失敗する場合、例えば独占や環境汚染といった場合に暮らしや社会にもたらす損失についても考えてもらいます。市場競争が望ましい結果をもたらす場合も、そうでない場合もあることを理解することで、競

争が有用であるとともに万能ではないことが分かります」。ミクロ経済学は、社会の中で、企業や様々な組織について理解し、その利益と国民生活の公益との関係性を理解する上で役立つ知識だ。「経済学用語は特殊な表現が多く、人間を合理的であるとする特有の考え方もありますが、事例を交えて楽しく理解されるようにしています。私自身、時々ブラックなジョークも言いますが、それも含めて経済学には社会を見る際に使える面白い側面があることを理解してもらいたいですね」。

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。



STUDENTS VOICE

「社会や市場の行動原理に対して、お金や効率だけを優先するのではなく、環境を重視する必要性も学びました」(足立)「個人の消費が経済や物価に影響する仕組みを理解することで、自分の行動や買い物が経済と、どのように結びついているのかを理解できました」(小山)



右 足立瑛恵さん(経済学部1年)
左 小山寛登さん(経済学部1年)

大串葉子 准教授

Profile
専門はITマネジメント。最近、道路などのインフラマネジメントの研究にも力を入れている。



大串ゼミナール

理論や手法は、暮らしやすい社会と効率的な経営を生み出す一助となる

大串ゼミナールは、理論や基礎知識を習得するため、新聞発表や輪読発表を行う週2コマのゼミ。教室での発表や討論のほか、年に4回ほどの企業見学を実施。さらに、教授自身が「面白い」「学生にぜひ会わせたい」と思った企業人や官僚、まちづくりの達人と講演会も開いている。「“情報をマネジメントする”理論や手法を学ぶことで、より暮らしやすい社会、より効率的な経営を生み出す一助となります。学生たちにはゼミでの活動を通じて、①理論と実際に同時に学び、②どの業界に身を置きたいか、③やりたいことを成し遂げるには何が必

要か、について熟考し、生き抜く力を身に付けてほしいと考えています」。理論には限界もあるが、ものごとの法則性や類似性を見抜く力を与えるもの。さらに輝いている社会人と深い議論を交わすことは、壁にぶつかりながらも前に進む姿を胸に刻むことにつながり、それらが将来、自らの限界を感じた時の乗り越える糧となることを期待していると大串准教授。「楽しく有意義に、和気あいあいと学習することが理想です。大串ゼミはよく一緒に食事に行きますが、それは美味しいものを食べているときが一番幸せで活力が出るからです」。



STUDENTS VOICE

「毎回、日本経済新聞から自分が気になった記事を取り上げて詳しく調べ、発表・討論しています。また、先生がお勧めしてくださる本を輪読したりもしています」(岩淵)「教室の外でも、企業訪問や工場見学などを通して、ものづくりの現場や声を知っていくことをゼミの目標にしています」(亀山)



右 岩淵 愛さん(経済学部3年)
左 亀山 努さん(経済学部3年)

研究課題

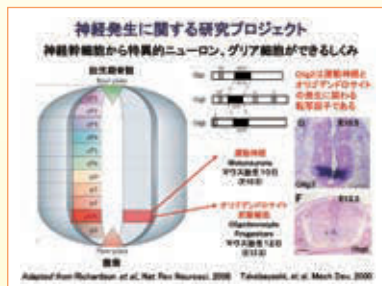
神経幹細胞から特定のニューロン、グリア細胞を生み出すメカニズム

大学院 医歯学総合研究科 神経生物・解剖学分野(解剖学第二) 竹林浩秀 教授

神経系の発生、 発達のメカニズムを研究

竹林浩秀 教授

医学博士。専門
は神経発生学・
神経解剖学。



↑胎児期の脊髄の断面図。腹側から出る細胞外分泌因子の濃度勾配を感知し、異なる細胞が産生される

“神経系”は、個体の情報処理を行なう生存に必須の器官。もともと一枚のシート状だった細胞の塊がチューブ状の神経管となり、その先端が大きくなることで形成される。その際に分泌される“細胞外分泌因子”の濃度勾配に応じて、決まった場所から決まったニューロン(神経細胞)、あるいはグリア細胞(神経系を構成する神経細胞ではない細胞)が発生することが分かっている。このメカニズムを調べるなかで、筋肉を支配する運動ニューロンと、オリゴデンドロサイトというグリア細胞が生み出される場所に発現する“転写因子”(遺伝子の発現を司る遺伝子)を発見した。「このOlig2転写因子のないマウスは、運動ニューロンを作り出せないため、お母さんのお腹のなかでは生きていても、産まれたらすぐに死んでしまいます。横隔膜を動かすことができず、呼吸ができないんですね。このよ

↑教室メンバーは出身学部、経歴もさまざま



うに、神経系の発生に関わるような遺伝子について、モデル動物を使って実験をしています。特定の細胞の発生に必要な因子が分かることで、たとえば運動ニューロンが侵されるALSという病気の治療に役立てられないかと、オリゴデンドロサイトが壊れてしまう多発性硬化症という病気に関してオリゴデンドロサイトを再生させることができないか、という再生医学の研究もなされています。ですから、神経発生を研究するということは、病気の治療にも直結することなんです」。研究には、謎解きのおもしろさがあると語る竹林教授。「今は実験で、本当にいろんなことができる時代です。ぜひ若い人たちにも研究のおもしろさが伝わればいいと思いますね」。

新潟大学の特色ある 研究トピックを紹介

注目される研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

人文社会・教育科学系(法学部) 鈴木正朝 教授



鈴木正朝 教授

博士(情報学)。
情報法制等を研究。

プライバシーの権利を 守るための法整備に尽力

個人情報保護法制、プライバシーの権利、医療情報等に関する研究を行う鈴木教授。大学で教鞭をとる傍ら、法とコンピュータ学会理事をはじめ、学外での社会活動を積極的に行っている。「ここ数年はマインバー制度の導入に向けた研究と活動をしていましたが、番号法の成立により、念願の“特定個人情報保護委員会”という新たな独立行政委員会が創設されるに至りました。また、政府情報システム刷新有識者会議の委員として、政府CIO(内閣情報通信政策監)制度の創設の様子を見ることもできました。昨年から、政府

IT総合戦略本部のパーソナルデータに関する検討会の委員として、個人情報保護法改正に関わる見直し方針案や大綱案の検討をしています」。先日、個人情報保護法改正の大綱がまとまったばかり。来年には改正案が国会提出される見通しだ。「個人情報“の定義や第三者提供の法解釈でいろいろと厳しいやりとりもありましたが、今年に入ってその論争の舞台は解釈論から立法論も視野にいったところに移っています。匿名化処理したデータなら、もっと自由に活用したいのではないかと、この是非などを議論してきたわ



↑ゼミでは簡易スタジオでさまざまな動画コンテンツを作成。動画サイトで情報発信も行う



↑「パーソナルデータの利活用に関する大綱」について説明する鈴木教授

けです。いよいよ年内には具体的な法制化作業に入ります。実は、個人情報保護法の議論はここ年で劇的に変化し、統計的、数理的な観点からの分析を要する分野となってきました。情報法学は情報処理研究の助力なしに成立し得ない新たな時代に突入しているといった感じですね。文理両方の研究者で新しい情報学会の設立に向けて議論や準備をしているところですよ」。

——先生、今回の対談にこの面々を選ばれた理由とは？
小島 えーっと、できるだけ悪ガキと言いか、学生時代に僕がさんざんいじめられた連中を集めました(笑)。
滝沢 いきなり何を言われるんですか！
小島 まあ、真面目に言うのと、滝沢君は私が新潟大学に赴任した年の学生で、言わば長男で、佐野君と高橋君はその何学年か下の同期で…、藤君はさらに下の、この中では末っ子的存在かなと。

藤 先生の研究室は、本当に家族みたいな感じだったんですよ。僕がいた頃も、すでに卒業された滝沢さんがタ方に酒を持って現れる、とか(笑)、すぐアットホームでね。
小島 あと、みんな、我が家にも呑みに来たりとかさ。——やはり、お酒の話は避けられないようですね。
小島 そりゃそうだよ！だって、大学で大事なものは、人づくり。(研究室では)性格も出身地も違ういろんな連中が、言っしまえばひとつの家族になるわけですから。その人づくりのために、僕は現場主義ってことを貫いていて——。僕は植物病理学が研究テーマでしたけど、とにかくみんなでフィールドに出て、一緒の目で土と植物を確かめ、一緒に飯を喰って酒を呑むと(笑)。そういうプロセスを経ていくうちに、いろんなことを知り、自分で判断できるようになるんです。教科書での勉強は大学生なら黙っていてもする。でも、そこから離れた現場で、どこにも売ってないものを学ぶってことが大事だと僕は思っています。

高橋 実際、例えば津南に行つて、畑を見て、自分の目でウィルスを探るってことをよくやってたんですよ。「ウィルス・ハンティング」と称して。
小島 まあ、大変だったかも知れないけど、みんな、それに耐えてくれたからね。
滝沢 耐えるなんて感覚じゃなく、楽しくやれてましたよ。実際にどうという病気がどんな風に植物に出るのかは、本当にフィールドで見ないと分からなかったりするし。

藤 で、その現場には、学生と先生だけでなく、例えば新潟県農業試験場のスタッフと一緒にいったりもするんです。その中で、学生が初めて大人の社会に触れ、大人とつき合うってことも学べましたし。今考えると、それもすごく大きな経験になりましたよね。
滝沢 そう。まだインターンシップもない時代だけど、実はそういう社会を知る試みも我々はやっていたという。

——佐野さんも今、教える職業に就かれています。先生と過ごした時代がルーツになっているんじゃないですか？
佐野 まさにそうです。卒業後も、先生の助手をやらせて頂いたり、ほぼ半生を一緒にしていますが——とにかく先生は、包容力と言うか、人間力と言うか、とても人を惹きつける魅力のある方だと思います。そもそも、ひと声かければ卒業生がこれだけササッと集まるんですから。
小島 まあ、お金がなくても良い条件で実験したい——そのためにはいろんなことを工夫し、楽しんでやると。そんな僕の遊び心につきあってくれた連中だからね。



撮影協力：江戸っ子
(新潟市西区内野町998-1
／tel.025-262-3404)

滝沢 勤さん

新潟大学大学院農学研究科を昭和55年3月に修了。現在は新潟市「食育・花育センター」花育係 園芸相談員。



藤 晋一さん

新潟大学農学部農学科を平成元年3月に卒業。現在は秋田県立大学 生物資源科学部 准教授。



佐野義孝さん

新潟大学農学部農学科を昭和60年3月に卒業。現在は新潟大学 自然科学系(農学部) 准教授。



高橋 亘さん

新潟大学農学部農学科を昭和60年3月に卒業。現在は第一三共株式会社 バイオ基礎研究所長。



小島 誠 名誉教授

昭和13年生まれ。昭和61年より新潟大学農学部教授に。専門分野は植物病理学。農学部部長、大学院自然科学研究科長などを歴任し、新潟大学の発展に寄与。俳句と山をこよなく愛し、書も名人の域。現在の農学部中庭「嵐丘庭(らんきゅうてい)」の銘板は小島名誉教授の書によるものだ。



Campus Information

地域に密着しながらさまざまな活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります！



樋口 強氏

新潟大学・全学同窓会交流会「記念講演会・懇親会」のご案内

開催日時 平成26年10月11日(土)

【講演会】15:00～17:00(入場無料)

【懇親会】17:30～19:30(会費5,000円)※学生は3,000円

会場 ANAクラウンプラザホテル新潟(新潟市中央区万代5-11-20)

毎年秋の恒例行事「新潟大学・全学同窓会交流会」を開催します。

今年は、ご自身の闘病生活を基にした創作落語で「生き方は自分が決める」、「生きてだけで金メダル」などをテーマに全国で「いのちの落語講演会」を行い、注目を集めている樋口強氏(昭和50年 人文学部卒)を講師に迎え、「いのちの落語一笑いは最高の抗がん剤」と題してご講演いただきます。ユーモアの中にも愛情溢れる高座をお楽しみください。また、新潟大学の話題として、平成24年10月から医歯学総合病院を基地病院として運航を開始した新潟県ドクターヘリの活動状況について、同病院高次救命災害治療センター副看護師長・フライトナース 宮澤舞子氏からの講演があります。

講演会終了後は、講師の方々や同窓生、教職員、学生を含めた懇親の場を用意しています。講演会・懇親会とも新潟大学卒業生に限らず、一般の方もご参加いただけますので、皆さまのお越しをお待ちしております。

新潟地震50周年事業—ふるまち防災フェスタにブース参加しました

平成26年6月14日(土)新潟市中央区古町通6、7番町(古町モール)でふるまち防災フェスタ(主催:新潟地震50周年事業実行委員会)が開催され、本学から災害・復興科学研究所の教員や学生らが講師を務め、建物の高さによっての揺れ方の違いが体験できる「ゆらゆら」、液状化の仕組みがわかる「エッキー」など5つの実験を行いました。

新潟大学のブースにも幅広い年代層の多くの方が訪れ、学生らが講師を務める各種の実験を体験したり、新潟地震地盤災害図に興味深そうに観たりして、防災意識を高めていました。

災害・復興科学研究所では、今後も災害メカニズムの解明



液状化の仕組みを学ぶ「エッキー」の実験 防災フェスタに参加した学生・教職員



と復興支援に対する社会的な要請に応えるとともに、研究成果を国内外に積極的に発信するよう取り組んでいきます。

新潟大学基金のお知らせ ぜひご協力ください

学生の修学支援、国際交流活動等に活用しています。

※税法上の優遇が受けられます

●基金ホームページ

<http://www.niigata-u.ac.jp/kikin/index.html>

新大サポーター連携推進室

電話:025-262-5651(受付時間 平日9:00～17:00)

FAX:025-262-7796

E-mail:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp



「新潟大学カード」入会受付中!

VISA付きの国際カード「新潟大学カード」。

卒業生と母校の絆を、いつもポケットに!

●新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局

電話:025-262-7891

(受付時間 平日10:00～15:00)

E-mail:dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp

入会受付中



新潟大学
季刊広報誌

六花

RIKKA

No.9

2014 Summer

発行/平成26年7月 編集/新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)

電話/025-262-7000 FAX/025-262-6539

Home Page <http://www.niigata-u.ac.jp/>

E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp

Facebook <https://www.facebook.com/niigata.univ>

編集後記

今回も多くの取材で、学生たちはいきいきとした表情を見せてくれました。カメラマンやライターを唸らせるほどのしっかりした学生や、きらきらと輝く瞳で夢を語る学生など、改めて学生の能力と可能性にワクワクさせられました。そんな学生たちに心からの「いいね!」を送りたいと思います。(O)